

2019（令和元）年度  
事業報告書

自 平成31年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日

## はじめに

2019（令和元）年度は、当財団の最も大きな事業である第10回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の前年度にあたり、参加者の募集、事前審査による出場者の決定、宣伝等準備活動を行いました。

また秋の「グランプリ・コンサート2019」では、第9回「大阪国際室内楽フェスタ」でメニューイン金賞を受賞した「デュオ・プロコピエフ・ダフチャン」（ロシア）を招聘して、全国10会場で公演を行いました。

さらに、室内楽の演奏活動及び教育普及活動に対する助成事業や広報誌の発行、調査研究事業では報告書を発刊しました。

## 公 1

### (1) 国際的な室内楽コンクールの開催に関する事業（26,055千円）

2019(令和元)年度は、第10回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の開催に関して、以下の事業を実施しました。

#### 1. 団体募集の広告実施

前年度末直前の3月8日(金)に募集開始の記者発表をホテルニューオータニ大阪で行ったのを受けて、本年度初めから鋭意広告を実施いたしました。

- a. 国内の音楽関係の雑誌や新聞の4月～6月号に、集中的に掲載。「音楽の友」、「音楽現代」、「モーストリー・クラシック」「ショパン」「ぶらあぼ」「サラサーテ」「関西音楽新聞」
- b. 海外の著名な音楽雑誌に広告を掲載しました。

Chamber Music America (アメリカ), Strad(イギリス), BBC Music Magazines (イギリス), Gramophone(イギリス), ECMA(オーストリア)

#### 2. 募集要項等の配布

- a. 4月、国内外にいるコンクール審査委員と、フェスタ正副審査員長に要項とチラシを送付。
- b. 4月～6月、海外及び国内の主な音楽学校に、要項とチラシを送付。
- c. 4月～6月、国内の主要な音楽ホール、音楽事務所、関係諸機関にもチラシを送付。
- d. 7月、第4回フェスタで優勝したデュオ・ロマノフ・クガエフスキーと第6回フェスタで優勝したモスクワ・クアルテットに要項15冊とチラシ100枚を郵送し、ロシア国内での配布を依頼。
- e. 第9回コンクールの審査委員を務められたイギリスのL.チリングリアン教授に要項15冊とチラシ100枚を郵送し、イギリス国内での配布を依頼。
- f. 8月末のバンフ国際弦楽四重奏コンクール(カナダ)に出場した弦楽四重奏団と、9月初めのミュンヘン国際音楽コンクールに出場したピアノ三重奏団に要項を配布。

#### 3. インターネットの活用による情報発信

- a. 募集開始の記者発表と同時に、HPの早期立ち上げに力を注ぎ、実施要項の内容を掲載したホームページ及びfacebook等のSNSを立ち上げました。
- b. 国際音楽コンクール世界連盟のホームページにも当コンクールの最新内容を更新。
- c. 音楽関係の情報サイトBachtrackとMusical Chairs(いずれもイギリス)に参加団体募集の広告を掲載。
- d. 過去のコンクールに入賞した団体からのメッセージビデオを製作し、配信しました。

#### 4. 募集締切と応募状況

- a. 2019年10月20日にコンクール&フェスタの参加団体の募集を締め切りました。
- b. 今回は、海外から27の活動拠点(国/地域)から108団体、国内からは18団体、合計で28の活動拠点(国/地域)から126団体の応募がありました。

## 5. 予備審査の実施

a. 今回応募のあった合計 126 団体を対象に、音楽専門家により予備審査を実施しました。

- ・コンクールの予備審査: 11月18日(月)～11月21日(木)の連続4日間で実施。
- ・フェスタの予備審査: 11月25日(月)～12月3日(木)の中の4日間で実施。

b. 予備審査委員氏名(敬称略)

コンクールの予備審査: 堤 剛(チェロ)、池田 菊衛(ヴァイオリン)、小栗 まち絵(ヴァイオリン)、  
大島 路子(ヴィオラ)、大友 肇(チェロ)、練木 繁夫(ピアノ)、  
梅本 俊和(ピアノ)

フェスタの予備審査: 梅本 俊和(ピアノ)、河野 正孝(オーボエ)、呉 信一(トロンボーン)、  
高橋 満保子(ヴァイオリン)、中谷 満(パーカッション)

c. 予備審査の合格団体

今回から音源は全て DVD に変更したため、審査委員には応募団体の演奏風景を確認しながら審査を実施していただきました。その結果、**第 1 部門、第 2 部門とも 10 団体**を合格としました。同様に**フェスタ部門は 18 団体**を合格とし、12 月中に全応募団体に結果を通知しました。尚、従来より合格団体の中から参加見合わせの団体が僅かですが生ずるため、各部門とも二、三の補欠団体を設けました。

d. 過去の入賞団体によるコンサートシリーズの実施

当コンクールで入賞した多くの団体は、コンクール後も世界各国で演奏活動を続け、国際的な実績を挙げております。第 10 回コンクールのプレイベントとして、昨年 5 月から本年 2 月まで『**世界をリードする弦楽四重奏の響宴**』のリサイタルシリーズがザ・フェニックスホールで 4 公演実施しました。

- (1)アルカディア・クアルテット (第 8 回コンクール第 1 位) 2019 年 5 月 23 日
- (2)クアルテット・エクセルシオ (第 2 回コンクール第 2 位) 2019 年 7 月 27 日
- (3)ドーリック・クアルテット (第 6 回コンクール第 1 位) 2019 年 11 月 3 日
- (4)ベネヴィッツ・クアルテット (第 5 回コンクール第 1 位) 2020 年 2 月 20 日

## 6. 開催記者発表

参加団体が決定したことに伴い、3 月 5 日(木)に、ホテルニューオータニ大阪において、マスコミや音楽関係者、30 名を招いて、参加団体の発表を行いました。併せて、第 10 回大会の開催意義や参加団体の特徴等をコンクール審査委員長とフェスタ審査委員長にお話しいただきました。

## 7. 臨時開催委員の開催

これまで、第 10 回大阪国際室内楽コンクール&フェスタの開催に向けて準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的な流行に伴い、参加団体、審査委員、関係者の来阪が困難となったため、3月24日(火)の臨時開催委員会において、5月の開催を見送り、延期開催の可能性について検討することとしました。

第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ

活動拠点別/部門別 応募・合格団体数

No.	活動拠点	第1部門		第2部門		フェスタ		合計	
		応募	合格	応募	合格	応募	合格	応募	合格
1	アメリカ	8	4	3	2	6	1	17	7
2	イギリス	1	1	1		4	1	6	2
3	イタリア			2	1	2		4	1
4	ウクライナ					2	1	2	1
5	エストニア					1		1	
6	オーストラリア	1				1		2	
7	オーストリア	2	1	2	1	3	2	7	4
8	オランダ			1	1	3	1	4	2
9	カナダ					1		1	
10	韓国			1		2		3	
11	スイス			2		2	1	4	1
12	スペイン			1		2		3	
13	セルビア					1		1	
14	台湾			1		1		2	
15	中国	1		1				2	
16	チェコ			1	1			1	1
17	デンマーク			1		1		2	
18	ドイツ	1		3	1	3	1	7	2
19	パレスチナ					1		1	
20	フランス	1	1	4	2	7	4	12	7
21	ブルガリア					1		1	
22	ベラルーシ					2	1	2	1
23	ポーランド					1	1	1	1
24	香港	1				1		2	
25	マレーシア					2		2	
26	モンゴル					2	1	2	1
27	ロシア			1		16	3	17	3
28	日本	5	3	3	1	9		17	4
<b>合計</b>		<b>21</b>	<b>10</b>	<b>28</b>	<b>10</b>	<b>77</b>	<b>18</b>	<b>126</b>	<b>38</b>

(注)活動拠点は、団体の応募時点での居住地を基準に表示しています。

## (2) 室内楽の演奏会の開催(10, 283千円)

2019(令和元)年度は、以下の事業を実施しました。

### 1. 「グランプリコンサート2019」の開催

昨年は、第9回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」のフェスタでメニューイン金賞を受賞した「デュオ・プロコピエフ・ダフチャン」(ロシア)を招聘し、新たに「小林市文化会館(宮崎公演)」、「横浜市港南区民文化センター ひまわりの郷ホール(横浜公演)」を加えた国内10会場で実施しました。また広島公演の庄原市民会館では、公演前日の「文化の日」に会館主催の文化活動発表会に飛び入りで参加し、市民の皆様と交流を行いました。各会場の来場者からは、「ドムラのホールの隅々まで広がる伸びやかな高音がとても綺麗だった」、「ホールにパイプオルガンが設置されたと思う程のバインの音量に圧倒された」、「初めて聴いたロシアの民族楽器の音色に感動した」、「聴きやすい曲が多く楽しかった」などの感想が聞かれました。尚、入場者総数は、10公演で3,282名でした。



(大阪公演・いずみホール)

### 3. 公演日程

月日/曜日	公演名	会場
10月31日(木)	高岡	高岡文化ホール 大ホール
11月2日(土)	鳥取	鳥取市文化ホール
11月4日(月)	広島	庄原市民会館
11月7日(木)	宮崎	小林市文化会館 小ホール
11月9日(土)	大分	くにさき総合文化センター アストホール
11月10日(日)	熊本	益城町立広安西小学校
11月11日(月)	大阪	いずみホール
11月13日(水)	三重	三重県文化会館 大ホール
11月16日(土)	横浜	横浜市港南区民文化センター 「ひまわりの郷」ホール
11月17日(日)	東京	トッパンホール

全国協賛：大和ハウス工業株式会社

全国助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

全国協力：野村證券株式会社

## 公 2

### (3) 室内楽に関する各種活動への助成(3,190千円)

2019(令和元)年度は、選考委員会で決定していた以下の事業に対し、助成金を交付しました。

#### 2019(令和元)年度 助成金交付事業

(単位：円)

	事業名	申請者	開催地	開催月	金額
1	センチュリー室内楽シリーズ Vol.5&6 トップ奏者による弦楽四重奏	豊中市立文化芸術センター 館長 阪本 一郎	豊中市立文化芸術センター 小ホール	2019.7	300,000
2	演奏家と邦人作曲家シリーズ 2019 in KANSAI	公益社団法人 日本演奏連盟 理事長 堤 剛	いずみホール	2019.7	200,000
3	ICEP2019 日本 訪問プログラム・報告コンサート	特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング* 理事長 五嶋 みどり	大阪 ザ・フェニックスホール 東京 王子ホール	2019.6	300,000
4	月見の里室内楽アカデミー2019	袋井市月見の里学遊館 館長 根津 幸久	静岡県袋井市 月見の里学遊館 うさぎホール	2019.8	500,000
5	室内楽コンサートシリーズ Vol. 71～Vol. 75	京都フィルハーモニー室内合奏団 理事長 小林 明	京都文化博物館 府民ホールアルティ	2019.4 他	500,000
6	子どものためのコンサート 第12弾(仮)	神戸大アートマネジメント研究会 土田 菜津美	シーサイドホテル舞子ビラ神戸 あじさいホール	2019.8	100,000
7	spac-e(スペース) 東京・大阪公演	spac-e 本堂 誠	杉並公会堂 小ホール ヤマハミュージック大阪なんば 店	2019.8	100,000
合 計					2000,000

## 公 3

### (4) 広報誌の発行に関する事業(4, 343千円)

2019(令和元)年度は、以下のとおり広報誌「奏」を刊行しました。

- ・「奏」51号 5月16日発行
- ・「奏」52号 10月28日発行

各号とも音楽関係団体、学校、会館、財団関連企業等に2, 500部ずつ配布しました。

### (5) 調査研究に関する事業(1, 948千円)

2019(令和元)年度は、以下の事業を実施しました。

年度中2回の調査研究委員会(2019年9月18日、2020年2月14日)を開催し、2020年度からの研究の推進について検討しました。

1. アジア地域での室内楽及び民族音楽に関する調査研究  
アジアにおける室内楽(西洋音楽)の実例調査のあり方を検討
2. 「室内楽との触れ合いの場」創出に関する研究事業  
子供を対象としたプログラムの開発研究に向けての検討